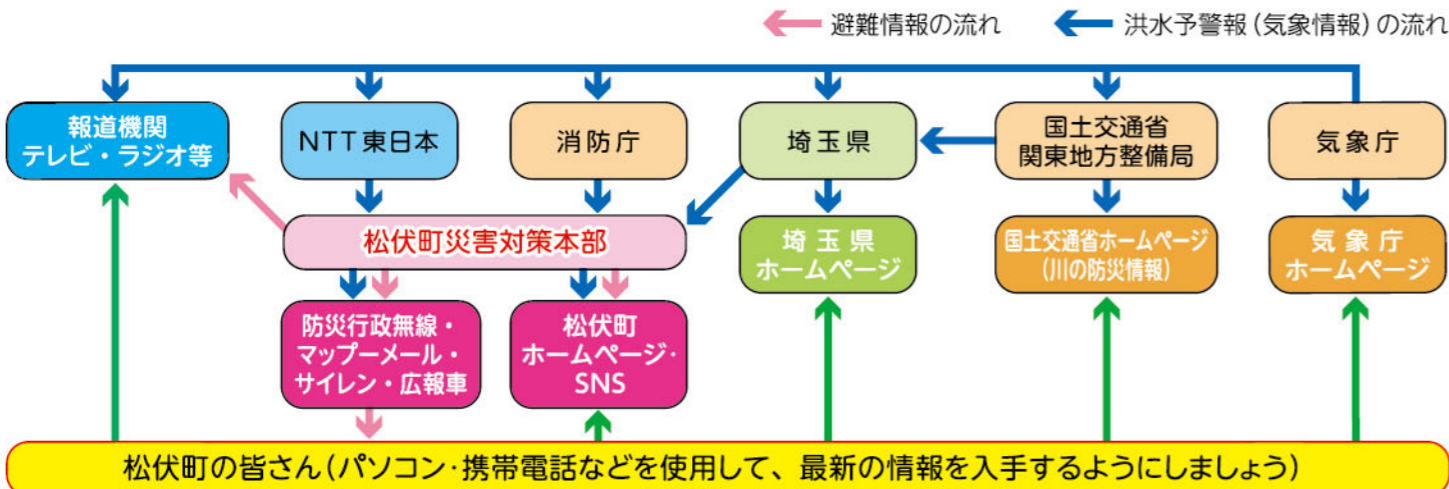


災害時には、様々な情報が発表されます。常に最新の防災情報を入手して、避難に備えましょう。また、避難情報が発令されていなくても、その場に留まることが危険と判断したら、自主的に避難を開始しましょう。

洪水予報・避難情報の伝達経路



洪水時に入手する防災情報

松伏町が出す警戒レベル3又は警戒レベル4(避難情報)で必ず避難しましょう
気象庁などから出る河川水位や雨の情報を参考に自主的に早めの避難をしましょう

避難情報等(警戒レベル)				河川水位や雨の情報(警戒レベル相当情報)			
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)			
				浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)		
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保	5 相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 (土砂災害)	
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~~							
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 相当	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報	
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3 相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報	
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2 相当	氾濫注意情報	—	
1	今後気象状況悪化の おそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1 相当	—	—	

松伏町は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

### ◆水位情報について

水位情報では、水位観測所で観測される河川の水位に応じて、氾濫への警戒状況を設定しています。河川の水位は「川の防災情報」などで確認できます。

氾濫危険水位(警戒レベル4相当)	河川の水が溢れるおそれのある水位
避難判断水位(警戒レベル3相当)	松伏町が避難判断を発令する参考となる水位
氾濫注意水位(警戒レベル2相当)	水防関係機関が活動して水防活動を行う目安となる水位
水防団待機水位(警戒レベル1相当)	水防関係機関が水防活動の準備を始める目安となる水位

## 洪水時の避難行動

### ◆基本は立ち退き避難、次に緊急時の屋内安全確保

風水害での避難行動では、災害が発生する前に危険性がある場所から浸水のおそれがない場所に避難する「立ち退き避難」が基本です。高齢者等避難が発令されたら高齢者や身体の不自由な方等が避難を開始、避難指示が発令されたら全員が避難を開始・完了してください。しかし、「立ち退き避難」を行う余裕がない場合や、悪天候などにより外出することが危険な場合は、ハザードマップ等により屋内で身の安全を確保できるかを確認したうえで、自らの判断で「屋内安全確保」をすることで命と身体を守りましょう。



避難情報(避難指示など)が発令されていなくても、その場に留まると危険と判断したら、自主的に立ち退き避難を開始してください。松伏町周辺浸水エリアマップや利根川・江戸川洪水ハザードマップなどで、浸水のおそれがない周辺地域を確認しておきましょう。

あなたがとるべき避難行動をチェック!  
内閣府防災情報のページ

### 適切な避難先の確保(分散避難)

避難とは「難」を「避」けることです。風水害時は「立ち退き避難」が基本ですが、安全な場所にいる人まで「立ち退き避難」を行う必要はありません。また、避難先は松伏町が指定する避難所だけではありません。さまざまな避難先を検討しましょう。

#### ◆指定避難所以外の避難先(例)

- 安全な場所にある親戚・知人宅やホテル  
町外や他県など地域が異なる複数の場所を考えておきましょう。親戚・知人には日頃から相談しておきましょう。
- 安全な場所での車中泊  
豪雨時や夜間などは車での移動は危険です。事前にハザードマップで安全な場所を確認したうえで、さらに周囲の状況等を十分確認してください。

#### 町の指定避難所について

- 指定避難所は不特定多数の人が集まるため、プライバシーが大幅に制限され、新型コロナウイルスなど各種感染症のリスクも高く、小さな子どもや高齢者は強いストレスを感じる環境です。避難する場合は3密を避け、マスク・消毒液・体温計など自ら携帯して避難しましょう。
- 松伏町が指定する指定避難所などは変更・増設される場合があります。災害時などは町のホームページなどを確認してください。



## 避難する際の注意点

### ◆正確な情報収集と自主的避難

ラジオやテレビ、携帯電話を利用し、最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



### ◆安全な避難経路での避難を

あらかじめ、自分たちで避難先までの避難経路を複数決めておき、その中から安全に通行できる経路で避難しましょう。



### ◆避難の呼びかけに注意

危険が迫ったときには、町や消防団から避難の呼びかけをします。その場合には、速やかに避難してください。

### ◆避難の前に確認

避難する前に、ガス、電気、火の元を点検しましょう。避難場所を確認し、途中で家族が離散したときの行動も決めておきましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しましょう。

### ◆動きやすい服装で、2人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。できる限り単独での避難は避け、近所で声をかけ合って避難しましょう。

### ◆水面下の危険にも注意

避難の際は、できる限り高さのある道路を通るようにしましょう。浸水場所では、水路や側溝、蓋が外れたマンホールなどに注意しましょう。

### ◆逃げ遅れたら高い建物に避難

万一、逃げ遅れて避難場所まで行く余裕が無い場合は、近くの丈夫な建物のできるだけ上の階に避難して救助を待ちましょう。建物の2階部分でも場所によっては危険な場合があります。

### ◆車での避難は避け、堤防に車を放置しない

車での避難は緊急車両の通行を妨げますので、特別の場合を除きやめましょう。また、車を堤防や道路に放置すると、水防活動の妨げになりますので、やめましょう。